

会議録

令和6年7月17日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和6年度第1回定例会
開催日時	令和6年5月22日(水) 18時30分から20時30分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、小須田厚子(副会長)、辻康一、荒井茂、小池教之、下坂小百合、石川健、青木美紀子、ギログリー江美、城石雅行、松本静、荒井容子、高井正 事務局：福所館長、市川事業係長(柳沢)、山本分館長(田無)、根岸分館長(芝久保分館長)、一之瀬分館長(谷戸)、安島分館長(保谷駅前)
欠席者	高橋浩一
議題	- 審議事項 - 令和5年度第9回定例会会議録(案)について(資料1) - 令和5年度第10回定例会会議録(案)について - 主催事業について - 令和5年度公民館主催事業報告について(資料2) - 令和6年度公民館主催事業計画について(資料3) - 令和5年度第2回利用者懇談会について(資料4) - 報告事項 - 行政報告 - 公民館だより編集室報告 - 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 - 東京都公民館連絡協議会定期総会報告 - 西東京市図書館計画策定懇談会報告 - 事務連絡及び情報交換 - 令和6年度定例会開催日程について(資料5) - その他 - 令和6年度第2回定例会の開催について
会議資料の名称	【配布資料】 資料1 令和5年度第9回定例会会議録(案) 資料2 令和5年度公民館主催事業報告書 資料3 令和6年度公民館主催事業計画書 資料4 令和5年度第2回利用者懇談会報告 資料5 令和6年度西東京市公民館運営審議会定例会開催日程(案)
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
傍聴者	☒ あり(2名) ☐ なし
会議内容	
1 審議事項 (1) 令和5年度第9回定例会会議録(案)について(資料1) ● 令和5年度第9回定例会会議録(案)について承認 (2) 令和5年度第10回定例会会議録(案)について ● 令和5年度第10回定例会会議録(案)については、各自内容を確認し1週間以内をめぐり修正意見を事務局に送ることとする。	
2 主催事業について (1) 令和6年度公民館主催事業報告について(資料2)	

○A委員

中学生・高校生対象講座「K－POPを踊ろう！」（柳沢）の参加者の男女比を教えてください。

○事業係長

男性1人から申し込みはあったが、初回から参加しなかった。結果的に全員、女性だった。

○B委員

報告書の書式には参加者の男女比を記載する欄はないが、事業によっては男女比のデータが必要なものもあるのではないかと。性別のデータをとることについてはいろいろな考え方があるが、報告書に男女比の記載欄を設け、必要に応じて記載するようにしてもよいのではないかと。

○事業係長

検討する。

○公民館長

今後、必要に応じて男女比を記載していく方向で検討したい。

○A委員

事業によっては男女比がデータとして必要なものもあるが、報告書への記載は不要で、定例会で口頭で答えてもらえばよいものもあると思う。

○C委員

趣味講座「駅前バンドをやろう」（保谷駅前）は、私も参加したが、意欲的な講座だったと思う。みんな自主的に練習したので、保谷駅前公民館の稼働率も上がったのではないかと。男女比は2：1くらいで、男性が多かった。保谷駅周辺を音楽の町にしたいという若い人の情熱を感じた。

「あつまれ！みんなのけいおん講座」（保谷駅前）の参加者の男女比は、ほぼ同数。無料で楽器の演奏等を教えてもらえて、仲間も増える、すばらしい講座だと思う。

○D委員

今は、男女に加えて、「その他」も選択肢に必要ではないかと。

多文化カフェ「ウクライナ避難民の方々との交流会～紅茶を飲みながら気軽に交流～」（保谷駅前）について、ウクライナの方たちの感想の記載がない。参加者の感想は大切だが、話をしたウクライナの方たちの感想も必要なのではないかと。よかれと思ってすることが、相手にとってはそうではないこともある。

○分館長（保谷駅前）

ウクライナの方たちの感想については、次回の定例会で紹介したい。

○A委員

「多文化カフェ」（保谷駅前）について、D委員の発言に関連してだが、ウクライナの方たちも市民と意識して、どのように講座を組むかということだと思う。本事業の担当者は報告書でウクライナの方たちを「地域資源」と表現していて、「ウクライナの方たち以外の市民にとって」という感覚が強く出ている。交流して学ぶ際には、「避難されてきたウクライナの方たちにとって」ということも意識されてよいのではないかと。

○E委員

乳幼児をもつ母親のための講座（保育付き）「子育てがラクになる、はじめてのママ講座～仲間との対話で笑顔の毎日を～」（柳沢）について、担当の考察・課題欄に「対象を第1子の乳幼児をもつ母親としたことで…募集対象の範囲が狭く参加者を募ることに苦労したため、広報の方法を見なおす必要がある」とあるが、実際にどのような広報を行ったのか。

○事業係長

公民館だよりや市ホームページなど、通常どおりの広報を行った。

○E委員

健康課の乳児検診は出席率がよいので、そこでチラシを配布するなどしてPRするとよいと思う。

○事業係長

講座のチラシを乳児検診で配布する封書の中に入れることはできないので、担当者は机上配布することを考えている。

○A委員

多摩市では乳幼児健診の際、本に関する冊子を配る事業を1992年から行っている。同様のことが行われているのではないか。その際、乳幼児をもつ母親が学ぶ機会があると、公民館の事業について積極的に伝えるといいのではないか。

○F委員

西東京市でも本や読書に関する冊子を配布している。

乳幼児をもつ母親のための講座（柳沢）は全19回で長い取り組みだったが、対象を第1子の乳幼児をもつ母親にしぼったことで、課題や悩みを共有することができたと担当者の考察・課題欄にある。このことは、今後の取り組みに生かされるだろうと思う。要望を受けて父親が参加できる回を設けたとあるが、実際の取り組みについて教えてほしい。

子育て中の人のための講座（保育付き）「健康な食事と健康な身体づくり」（田無）について、感想に「保育付き講座はママの孤独を防ぎ、社会教育に参加できる大事な機会だと思います」とあるが、長く実施した講座だからこそつながりができたことが感想にも表れている。参加者数は少ないが、本物の人間関係に触れたという実感、人として認められた実感があるからの感想だと思う。この点は外さないで、保育付き講座を今後も継続してほしい。

○事業係長

乳幼児をもつ母親のための講座（柳沢）は、育休中の参加者も多く、サークル化しなかったが、学びの振り返りとして自分たちのための記録誌をまとめた。

父親が参加できる回には、10人中9人が夫と参加した。感想を読むと、夫だけでなく妻も、自らを振り返る機会となったことがわかる。

○A委員

記録誌を委員にも回覧していただけるとありがたい。

○G委員

田無公民館の保育付き講座の担当者と話をして思ったのだが、不安だったり、孤独だったりする母親たちが救われることを考えると、講座は参加者数で評価されるべきでない。中身が問題。子どもが保育園にも幼稚園にも行っていない母親たちに仲間ができるのだから、保育付き講座は継続して実施してほしい。

○H委員

趣味講座（保谷駅前）の発表会に参加したが、老若男女が楽しんでいた。こういうことを続けていってほしい。

○A委員

報告書を読んで、「ギャラリー田無公民館」、「田無公民館サークル見学月間」、「曜日別活動サークル1日ロビー見学体験会」という田無公民館のサークルを支援する一連の事業がサークルの力になっていることがよくわかった。

サークルが単独でギャラリーを借りて展示するのはハードルが高い。ロビーを利用してサークルの活動を紹介する「ギャラリー田無公民館」（田無）はとてもよいと思った。

SDGsロビーフェスタ田無（田無）について、参加者の評価はどのようにとったのか。

○分館長（田無）

参加者は「えんたくん」を使ってテーマ別にテーブル・トークを行った。最後に各テーブルに発表をしていただいたので、その声を拾って、参加者の評価欄に記載した。

○F委員

具体的な実感はどうか。

○分館長（田無）

事業が入会につながっている、という声をサークルの方から聞いている。なかには会員が倍以上になったサークルもある。

○B委員

田無公民館は、休館中の令和3年度に「つながるプロジェクト」を実施した。その時、議論したことが今につながっていると感じた。

(2) 令和6年度公民館主催事業計画について（資料3）

○B委員

「SDGs ロビーフェスタ田無」など、田無公民館はSDGsに関する事業に取り組んでいる。岡山市では全公民館でSDGsに取り組んでいるが、西東京市でも、公民館全体でSDGsをどう考えていくか、検討することもあるのではないかと思います。

「夏の中学生ボランティア（SDGs サポーター編）」（田無）について、昨年度に引き続いて行われるが、SDGs サポーター編以外の中学生ボランティアの事業も予定しているのか、伺いたい。

○分館長（田無）

現時点で計画している事業はないが、将来的にあり得ると考え、「SDGs サポーター編」とした。

○A委員

「夏の中学生ボランティア（SDGs サポーター編）」（田無）は対象を中学生に限定している。以前、中学校でもボランティアを推奨していると校長先生から伺ったが、中学校と連携している事業。「夏休み青少年ウィーク」（谷戸）は、高校生、大学生、社会人のボランティアによる学習支援もあり、教え合い学び合う活動と位置付けられている。学校との連携事業ではなく、高校生の声を受けて企画したと、昨年度、伺った。

中高生が地域とつながるようにと、公民館が中高生を対象とした事業を行う際、ボランティアでなくてもよい。中高生の側はどう考えているのか。バンドやK-POPについては、それをしたい中高生はいるだろうとイメージできるが、SDGsのボランティアについてはイメージしにくい。全体として、中高生をどうとらえたらよいのか、みんなで共有したいと思う。

○公民館長

青少年を対象とした事業について、館によって特色があるのはよいことだと思う。また、昨年度の中高生が企画する小学生向け防災講座「めざせ！ 防災マスター!!」（谷戸）のように、中高生自身が企画する事業もよい。大人になってからも公民館で活動してほしいと思う。公民館の事業は、児童館等の他施設が行う事業とどう違うのかが大切。

○F委員

谷戸公民館が実施する事業の計画書に、近隣の小学校4校に夏休みの子ども向け事業のチラシを配布するとあるが、他館でも同様の取り組みを行うのか、伺いたい。子ども向け事業については、子どもたちに、全事業をまとめて示せるとよいのではないかと思います。

子ども体験講座「ガラスモザイクアートで作るオリジナル小箱」（谷戸）について、材料費が500円とあるが、小学生が持ってくるお金としては、高額と感じる。

子どもと保護者対象講座“親子ではじめよう理科読！ 「変身めいじん 水」”（田無）は公民館と図書館をつなげる内容でおもしろいと思うが、具体的な内容について伺いたい。

○分館長（谷戸）

子ども体験講座（谷戸）の材料費については、実際は2,000円程かかるところ、講師と相談の上、500円まで下げたという事情がある。

○分館長（田無）

自然科学に関する内容だと父親の参加が見込まれるので、企画した。また、講座で紹介した本を揃えた特設コーナーを設けてもらうなど、図書館の協力を得る。内容は水の変容について。

○C委員

「あつまれ！ みんなのけいおん講座」（保谷駅前）には、何年も継続して参加している子どもたちがいて、中には早くから来て準備と一緒にしてくれる子どももいる。私はサポーターとしてかかわっているが、今年度から、そのような継続して参加している子どもと一緒に運営していくことができるのではないかと思います。そういう循環をつくっていいと思う。

ひばりが丘公民館のサークル見学体験会の案内が、谷戸公民館に掲示されていた。近接しているので、よい取り組みだと思った。

○事業係長

ひばりが丘図書館にパネルを設置してひばりが丘公民館の事業のPRをしていたが、3か月間、パネルが設置できないことになったので、その間、谷戸公民館に移動させることにした。

今後、継続することを検討したい。

○A委員

「あつまれ！ みんなのけいおん講座」（保谷駅前）について、運営にかかわる人は定員外で受け入れてもよいのではないか。

○事業係長

楽器の数が限られているので、定員外で受け入れることについては検討が必要だと思う。

○A委員

子ども対象講座「アルキメデスのとびら～ナゾとき算数～」(芝久保)について、学校教育と変わらないと感じる。公民館が小学生を対象として事業を行う際は、もうひとひねり必要ではないか。子どもたちに算数のおもしろさを体験してほしいという思いは大切だが、公民館事業として行うということはどういうことなのか、なぜ必要なのか、議論し、明確にして提案した方がよい。そのような議論は行われているのか。

○分館長（芝久保）

子どもたちに公民館を知ってもらう機会、異年齢の子どもたちが交流する機会として、企画している。

○A委員

例えば、科学が好きな子どもたちがつながって、やがては講座の企画を考えるグループに育っていくことを目標とする意識と計画があれば、伝わると思う。

○I委員

クイズ形式を取り入れたところ等が、以前、定例会で出された意見を踏まえたところなのだと思う。

「アルキメデスのとびら」という事業名は、アルキメデスがお風呂に入っている時に体積の解き方を思いついたことを指していると思うが、この事業名ではイメージできない。クイズ形式は算数の問題を解くのではなく、日常の素朴な疑問を解決することや、考えることの喜びが伝わるような事業名や案内の仕方をすると趣旨が伝わりやすいと思う。日常生活の中の素朴な疑問は親子で一緒に考えることもできるので、そのように発展させることもできるのではないか。

○A委員

子どもを対象としながらも、関心がある大人も参加可能にしてもらえるといいと思う。

○F委員

子ども対象講座（芝久保）は2回、実施するが、それぞれに参加者を募集するのか、2回続けて参加することも可能なのか。異年齢の交流を図るとしているが、学年によって学力に差がある中、どのように行うのか疑問に戻っていたが、今のやりとりを聞いて、内容を工夫することで、交流も生まれると思った。

○A委員

小学生がわかる内容で、大人も子どもと一緒に驚きや感動を共有するような仕掛けができるとよいと思う。

(3) 令和5年度第2回利用者懇談会について（資料4）

●各館の利用者懇談会に参加した公運審委員が報告。

○G委員

田無公民館の利用者懇談会に参加。活動曜日別にグループに分かれて懇談した。

○D委員

田無公民館の利用者懇談会に参加。複数団体で部屋を一緒に使用する特例使用が話題になった。会員の高齢化が共通の課題として出された。

○I委員

柳沢公民館の利用者懇談会に参加。公運審委員で学び合いながら、市民の意見を公民館事業や運営に反映させることができるよう、活動していることを報告した。活動分野ごとにグループに分かれて懇談する時間があつた。自分が参加したグループでは、サークル同士が連携することも話し合われ、効果的な時間だったと思う。

○F委員

柳沢公民館の利用者懇談会に参加した。自分が参加したグループは和気あいあいな雰囲気です。懇談し、私も楽しかった。使用可能数を超える申込があった大ロッカーの調整では、1団体が小ロッカーに移ると申し出てくれた。抽選ではなく譲り合いで気持ちよく利用団体が決定したが、利用者懇談会の流れがあったからそうなのではないかと感じた。

○B委員

保谷駅前公民館の利用者懇談会に参加した。1時間かからずに終了して、残念だった。利用者懇談会は何なのか考える必要があると感じた。

○J委員

保谷駅前公民館の利用者懇談会に参加した。団体連絡箱の利用が中心で、じっくり話す雰囲気がなくて残念だった。

3 報告事項

(1) 行政報告

○公民館長

4月19日に校長会議、4月24日に副校長会議があり、その場で今年度の「まちなか先生」の予定について報告した。公民館では、3年を目途に講師を変更することを考えており、今年度から新しい方に講師を依頼する。

4月23日開催の教育委員会では、令和6年度公民館事業計画について報告した。令和6年度から令和10年度までの3つの基本方針について説明した。土日に保育を実施することやまちなか先生について説明したほか、全館で公衆無線LANの整備を行うこと、今年度、広報に力をいれることについても話した。

公衆無線LANの導入については、6月4日から6月10日にかけて、既に整備されている田無公民館以外の5館で工事を行う。市民に向けては、公民館だより6月1日号等で広報する。

令和6年度から令和15年度までの第3次基本構想・基本計画、令和6年度から令和10年度までの西東京市教育計画が策定された。教育計画については、冊子を公運審委員のみなさんに配布する予定。

○K委員

市内小・中学校、全校で、西東京市のことを知る「ふるさと探求学習」が総合的な学習の時間で取り組まれている。しかし、学校では、地域について深掘する手立てがない。「まちなか先生」を通して、地域とつないでいただいた。私の勤務校では、昨年度「まちなか先生」で来ていただいた方に、直接、講師を依頼した。このように、地域とつないでいただけることが大きい。

(2) 公民館だより編集室報告

- 担当委員より、5月13日開催の公民館だより編集企画会議について報告。7月1日号の一面では、子ども対象事業を一覧で紹介する10月1日号と2月1日号は4面で発行する。

(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

- 担当委員より、5月25日に開催された委員部会運営委員会について報告。今年度開催される東京都公民館研究大会では課題別集会を実施しないことになった。

(4) 東京都公民館連絡協議会定期総会報告

- 出席委員より、4月25日に開催された東京都公民館連絡協議会定期総会について報告。

(5) 西東京市図書館計画策定懇談会報告

- 担当委員より、令和5年度に開催された西東京市図書館計画策定懇談会について報告

4 事務連絡及び情報交換

(1) 令和6年度定例会開催日程について（資料5）

●事務局案を了承。

(2) その他

(3) 令和6年度第2回定例会の開催について

日時：令和6年6月19日(水) 午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室